

フッ素排水から高純度フッ化カルシウム

完全循環システム確立へ 年度内 めど 大型プラントで実証

興徳クリーナーが有効性確認

汚泥処理などに取り組む興徳クリーナー（大阪府岸和田市）は廃棄物として大量に排出されるフッ素含有排水から効率的に高純度のフッ化カルシウムを回収する技術を開発した。これまでも小規模な実証施設で実証試験を行ってきたが、有効性が確認できたことで今後研究開発の拠点である岸ノ浦工場に大規模のプラントを設置し、実用化に向けた実証に乗り出す。このほど大阪府から実証試験の許可を受け、早ければ今年度中にも開始する。同社は今後、フッ素の完全循環システムの確立を目指す。

回収率90% 純度は94%

同社の処理プロセスではフッ素回収率が90%程度で、回収されるフッ化カルシウムの純度が94%程度と非常に高い水準となっている。さらに工程は極めて短時間で反応が終了し、ゲル化を起こすことなく操作性も良好であるほか、使用する薬品量を抑え安価に排水を処

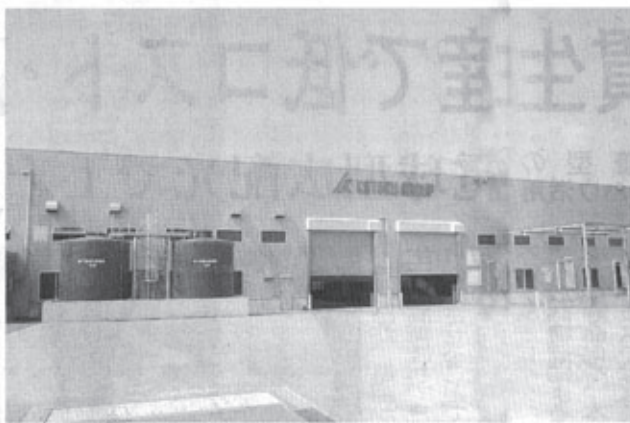


片瀨昭人社長

理できる。従来の一般的な処理と比較して優位性が示されており、現在特許を出願中。また、産業廃棄物処理事業振興財団の11年度産業廃棄物処理助成事業の対象にも選定されている。

長は、「当社は排出事業者の排水処理施設の維持管理なども手掛けており、これに加えて排出事業者の工場に回収施設を導入することも視野に入れている。弊社工場での回収や排出元での回収など、顧客ニーズに合わせて柔軟に対応していきたい」とする。

30%程度が限界とされていたフッ素の回収率が90%程度を達成でき、当社全体のリサイクル率も一段と向上する。フッ素資源を何度もリサイクルできる完全循環の確立を目指す」と話す。今後の課題としては、「いかにプラントをコンパクトにして効率化を図れるか」を挙げる。今後の実証の行方が注目される。



実証試験を行う岸ノ浦工場

いる。同社の片瀨昭人社

技術が確立されれば従来